

令和6年度 第1回上島町総合教育会議 議事録

日 時	令和7年2月26日(水) 10時00分～11時 30 分	
場 所	せとうち交流館 多目的ホール	
出席予定員	上島町長 上村 俊之 教育長 清水 伸 教育委員 山本 こころ 〃 古江 克巳 (ふるえ かつみ) 〃 大船 英夫 (おおふね ひでお) 〃 寺下 貴義 (てらした たかよし)	
事務局	総務部長 杉田 和房 総務課長 坂上 将人 課長補佐 前神 愛 学校教育課長 山本 勝幸 生涯学習課長 田中 耕造 課長補佐 西本 桂将 指導主事 亀山 秀磨 指導主事 井出 和宏	
欠席委員		
議 題	日程第1 町長あいさつ 日程第2 上島町児童生徒の学力・体力について 日程第3 小中学校のICT活用状況について 日程第4 その他	

議 事	※挙手及び発言の許可部分は省略
事務局(総務) 総務課長	それでは、定刻となりましたので、令和 6 年度第 1 回上島町総合教育会議を開催いたします。はじめに上島町長上村俊之からご挨拶を申し上げます。町長よろしくお願いいたします。
町長	皆さんおはようございます。本日お忙しい中にも関わらず、この総合教育会議にご出席いただきまして誠にありがとうございます。 日本は今、寒波に襲われてる状況ではございますが、今週は、何か暖かくなるんじゃないかなということで、このまま春を迎えてくれればありがたいなと思っております。3月に入ると卒業式等々ございますので、子供たちが気持ちよく、卒業していけるような、そういった気候になってくれれば、ありがたいと思っております。 平素より皆様方におかれましては、上島町の教育普及について大変ご尽力いただきまして、改めて心から感謝を申し上げます。平素から申し上げますように、私は、まちづくり、自治で、一番大事なのは教育であると思っております。公共事業とかですね、いろんな政策も、もちろん大切なんですけれども、長期的にまちづくりを考えたときに、一番重要なところは教育であると思っております。ただ、いつも申し上げてますが、なかなか教育というのはすぐに数字では、表れてこない部分がございます。評価が分かれるところではありますが、私はしっかりとこの教育分野において力を尽くしていくべきである、すぐに効果は出ないけれども、じっくりと構えてやるべきである。5年後、10年後の子供たち、あるいは上島町民に喜んでもらえるような、そういった町にしたいと思っておりますので、引き続き、皆様方のご協力をお願い申し上げます。 義務教育につきましては、しっかりと対応していただいております。まだまだ、100%不登校がなくなったわけではありませんけれども、少しずつ改善していただいて、子供たちが学校に行くのが本当に楽しいと思えるような環境づくりも、お願いしたいと思っております。そして義務教育からちょっと離れますが、弓削高校に関しても、今日の新聞報道にもあったように例年になく、応募者・受験生が増えている状況でございます。これもひとえに、教育委員さんはじめ皆様方のご協力のおかげだと思っております。 離島留学につきましても2年目が大事ですよ、ということを常に職員には言っておりましたが、2年目においても、応募者が多数いらっしゃるということで、この1年間、しっかりと取り組んでいただいた皆様に、感謝を申し上げたいと思います。前後しますが、魚島の離島留学につきましては、おかげで、応募者多数、弓削高校もそうですけれども、悲しいところは、お断りをしないといけないということで、これがちょっと、寂しく思っているところでございます。 この上島町総合教育会議は、今までは教育は教育部局ということで、理事者側はアンタタッチャブルみたいなところがございますが、改めて申し上げますと、法改正により、上島町の教育の方向性を、この総合教育会議で、方向性を議論していこうということでございますので、どうか、上島町の将来のため、何よりも、子供たちのために、皆さんの積極的な、ご意見を賜りたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。
事務局(総務)	ありがとうございました。それではこれより議事に移ります。 上島町総合教育会議運営要綱第 4 条により、議長につきましては、町長が務めることになって

	おりますので、町長、議長の方、よろしくお願いいたします。
議長(町長)	はい。それではご指名でございますので、本日の日程に沿って進めさせていただきます。 日程第 2、上島町児童生徒の学力、体力について、事務局から説明をお願いします。
事務局(教育) 井出指導主事	はい。失礼いたします。学校教育課指導主事の井出です。それではまず、児童生徒の学力についてご説明申し上げます。 令和6年度全国学力・学習状況調査の結果を基に説明させていただきます。 令和6年度全国学力・学習状況調査は、令和6年4月18日(木)に実施され、上島町は、小学6年生39名、中学3年生27名が参加しました。今回は、小学校、中学校とも国語、算数・数学が実施されました。 まずは、小学校国語です。平均正答率は、上島町 66 点、全国が 67.7 点でした。正答数分布グラフを見ると、概ね全国・愛媛県と同様の分布ですが、若干下位層の割合が高くなっています。内容別では、「読むこと」「我が国の言語文化に関する事項」の項目が全国平均を上回っています。一方で「書くこと」「情報の扱い方」に関する事項が全国平均を下回っており課題です。チャートで表すとこのようになります。 次に、小学校算数です。平均正答率は、上島町 61 点、全国が 63.4 点でした。正答数分布グラフを見ると、全国・愛媛県と比較すると、上位層よりも若干中～下位層の割合が高くなっています。内容別では、「データの活用」の項目が全国平均を上回っています。一方で「数と計算」「図形」「変化と関係」が全国平均を下回っており課題です。チャートで表すとこのようになります。 続きまして、中学校国語です。平均正答率は、上島町 60 点、全国が 58.1 点で今回の調査の中で唯一全国平均を上回っていました。正答数分布グラフを見ると、全国・愛媛県と比較すると、上位層と下位層の割合が高くなっており、中間層が少なくなっています。内容別では、「話す・聞く」「書く」「読む」つまり「思考・判断・表現」の項目が全国平均を上回っています。一方で「言葉の特徴や使い方に関する事項」が全国平均を下回っており課題です。チャートで表すとこのようになります。 最後に、中学校数学です。平均正答率は、上島町51点、全国が 52.5 点でした。正答数分布グラフを見ると、全国・愛媛県と比較すると、上位層と下位層の 2 極化になりつつあります。内容別では、「データの活用」の項目が全国平均を上回っています。一方で「数と式」「図形」「関数」が全国平均を下回っており課題です。チャートで表すとこのようになります。 ここからは、児童生徒質問紙について報告いたします。小中学校とも、朝食の喫食「毎日必ず朝食を食べる」の項目や「毎日同じ時間に寝ている」「同じ時間に寝ている」といった項目の結果が全国平均を大きく上回っており、規則正しい生活習慣の定着が、全国と比較するといいい傾向が見られました。また、「学校に行くのは楽しい」の項目が、前回調査に引き続き、全国平均

を大きく上回っています。授業内容が分かりやすいと答えた児童生徒の割合が全国平均より大きく上回っており、教職員の授業改善が進んでいる証ともとらえることができます。この傾向が続けば、更なる学力の定着、アップの可能性があると思われます。一方で、家庭学習に関しては、休日 2 時間以上、平日 1 時間以上を考えると大きく全国平均を下回っており、課題です。時間が多ければよいというものではありませんが、学習習慣の定着ということを考えると少し心配な結果です。

続いて小学校の結果です。チャートで表すとこのようになります。

小学校の質問紙をもう少し詳しく見ていくと、昨年度の調査で全国平均を上回っていた「将来の夢や目標を持っている」「自分にはよいところがある」の項目が全国平均を下回りました。職場体験学習に向けた計画的なキャリア教育を推進している中学校が全国比+9.6%であることを考えると、小学校でも、計画的にキャリア教育を進めていく必要があると感じます。夢や目標を持って生活することでやりがいが出、それが自己肯定感の向上につながると考えられます。先程、小中学校共通のところでも少し触れましたが、家庭学習の時間の短さが課題として挙げられます。それと反比例するように、平日におけるゲーム等の使用時間が極めて長くなっています。家庭の協力を仰ぎながら、時間の使い方について引き続き指導していかなくてはならないと思います。授業では、タブレット等ICTの活用が全国に比べ、大きく下回っています。「毎回、毎時間とにかく使う」ということではないのですが、ICTの優れている点を生かし、効果的に使うよう授業を改善していかなければなりません。文部科学省は、全国学力・学習状況調査を段階的にCBT(タブレットで回答するテスト形式)に移行すると発表しています。令和 9 年度 3 年後には、小学校を含め全面CBT移行となります。但し、これはPBT(従来の紙ベースでのテスト)を否定するものではありません。鉛筆を持って紙に書きながら、回答を記入するのはタブレットに、といった感じです。それぞれの良さを生かしながら、即座に結果が出、自分の強みや弱みを捉えることができるようになります。タブレットが授業で日常使いになり、テストに抵抗なく取り組めるよう、日頃から意識して授業に取り入れていきます。

最後に、中学校です。チャートで表すとこのようになります。小学校に比べると全国比で大きな開きはありませんが、学習よりもゲーム等に集中する時間が多いのが気になる点です。100 が 0 かではなく、バランスよくけじめを持って時間を使う指導を継続していきたいと思います。「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいる」の項目について、「どちらかといえば当てはまらない」の割合が若干多くなっています。生徒が主体的に考え、取り組むような授業へ改善していく余地があると思います。できる单元から、あるいは 1 単位時間の一部分から改善するように研修を重ねていきます。

対策についてです。「個に応じた学習を展開する」つまり基礎・基本の定着のため、また、発展的な学習を進めていくため、e ライブラリを更に活用していきたいと思います。ただし、やらせっ放しではなく、管理機能を使い、的確な見取りと声掛けをしていきます。何度も出てきますが、デジタルと伝統的な愛媛教育のベストミックスを推し進めます。タブレット一辺倒ではなく、今まで通り、紙に書いてじっくり考える時間も確保します。授業改善についても、計画的継続的な教職員研修を企画し、進めていきます。各学校では、児童生徒の実態を見取り、PDCA を回しながら学力向上の取組を進めています。町内一律で取り組むものと各校の実態に合わせ取り組むものをバランスよく取り入れていきます。

「将来の夢や目標を持っている」児童の肯定的な回答が少なかったことに対して、キャリア教育を推進していきます。中学校で行っている 5 日間の職場体験学習に加え、今年度は、生名小学校が、県内各地の取組を聞き、意見交換を行う「夢わく work フェスタ」のリモート校に選出され、意見を発表しました。今後もこのような機会を生かしてまいります。

以上で、学力についての報告を終わります。

続きまして、児童生徒の体力についてです。

5～7月に行われました、全国体力・運動能力、運動習慣等調査の小学5年生 41 名、中学2年生 21 名の結果を基に報告いたします。

小5男子の体格です。身長は全国・県平均並み、体重は全国より高くなっています。肥満傾向の児童の割合は、全校・県平均より多くなっています。

小5女子です。身長、体重とも全国平均より高くなっています。肥満度についても良好な結果です。

続いて、中2男子の体格です。身長は全国、県平均より低くなっています、体重は全国平均並みです。肥満傾向については、高度肥満、中等度肥満はいませんが、軽度肥満の割合が全国平均より大きくなっています。

中2女子の体格です。身長、体重は男子と同じ傾向です。また、全国、県平均と比べ肥満傾向が高くなっています。

続いて、実技についてです。

小5男子につきましては、どの種目も全国・県平均を上回っており、良好な結果です。特に持久力(20m シャトルラン)と投力(リフトボール投げ)の結果が平均を大きく上回っております。A 級到達者も多くなっております。

小5女子です。男子同様、どの種目も全国・県平均を上回っています。この中では、筋力(上体起こし)と柔軟性(長座体前屈)がやや低くなっていますが、全体的に良好な結果です。

中2男子の結果です。概ね全国・県平均並みですが、柔軟性(長座体前屈)と持久力(20m シャトルラン)が大きく下回っています。この影響もあり、A 級認定者はいませんでした。

中2女子の結果です。男子同様、概ね全国・県平均並みですが、筋力(上体起こし)が大きく下回っています。しかし、A 級認定者は一定数おり、2 極化が進んでいると考えられます。

以上のような結果を受け、各校で実態に合わせた「体力アップ推進計画」を立て、取組を進めてきました。その一例がこのようになっております。一朝一夕では結果は出ませんが、内容を見直しながら、継続していきます。

なお、小学校では愛媛県教育委員会が行っている「えひめ子ども IT スタジアム」に全校全学年が参加しました。いろいろな種目が設定されており、記録をオンライン上で競うものです。各学年10位までが表彰対象ですが、今年度は弓削小学校 2 年生が継続的に取り組み、このような結果を残しました。今後もこのような機会を生かしながら運動の日常化、体力の向上を目指します。

議長(町長)

はい。ありがとうございます。ただいま、事務局から学力・体力について、報告がありましたが、

	何かご意見、ご質問等ございませんでしょうか。
大船教育委員	説明ありがとうございました。 私の意見としては、最初に学力についてですが、先ほど説明がありました通り、学力はどの種目も全国平均ということで、大変良い結果になっているんじゃないかと思います。その中で、私が注目したいのが、6ページの児童生徒への質問ということで、上段ですけどね、朝食を毎日食べていますかというところですよ。小学校については90%で全国平均を9.6%上回っている。中学校については、86.2%、全国平均を、7.1%上回ってるという結果になっていますが、この数値としては大変良い傾向ではないかと思います。よく言われますが毎日の朝食は子供の脳の発達や成績、そして将来にまで影響を及ぼすとまで言われています。今後につきましては、全員が朝食をとってますというような数値になるよう、一層のご指導をしていただけたらと思います。 続きまして、体力についてですが、これも資料の、16ページから実技のデータがいろいろと載っていますが、昨年、私、この席でも言いましたが、長座体前屈です。昨年は、小学校5年生、中学3年生、男女ともに全国平均を大きく下回っていました。今年につきましては、中2男子だけが全国平均を大きく下回っているということで、小学校5年生の男女ともに全国平均を上回っています。中3女子についても、昨年より全国平均に近づいてきており大分改善されたと思います。この要因としては18ページの下に、体力アップ推進計画にありますが、岩城小中学校が積極的に柔軟性を高める動きを、取り入れていくということで、その成果があらわれてるんじゃないかと私は思っております。昨年、山本委員さんから、体が固い上にIT漬けになると、長い目で見て、心身ともに良くないとの意見もありました。私も同感です。また、体が固いということは、スポーツをする上で、けがをするリスクが随分と高まりますので、すべての学校において、重点的に柔軟性を高める運動を取り入れてもらったらと思います。よろしくお願いします。以上です。
議長(町長)	はい。今のご意見に対して何か事務局からお答えありますか。
事務局(教育) 井出指導主事	はい。ありがとうございます。それぞれの学力、体力ともになんですけども、学校によって、実態は少しずつ違います。それぞれの学校の実情に合わせつつ取り組んだ結果が、またこのような全体の結果にあらわれてくると思いますので、今後、朝食は100%みんなとっていく、あるいは、柔軟性もアップしたといえるように、各校の実態に合わせて取り組みを進めたいと思っております。ありがとうございます。
大船教育委員	はい。よろしくお願いします。
議長(町長)	これ、私の悪いくせで、議長が意見を出すのはいけないんですけど、朝食を取ってない子というのは、どういう理由からなのか、取らないといけない義務はないんですけど、どう捉えてい

	ますか。
事務局(教育) 井出指導主事	はい。この質問は朝食を毎朝必ず取っているかということですので、中には、朝寝坊も可能性としてはあるでしょうし、或いは保護者の仕事、早出遅出の都合で、十分なものが用意されていないというようなことも考えられます。ただ、先ほど言われましたが朝食は 1 日のエンジンをかけるためのガソリンになるものだと思いますので、そのあたりは、PTA総会や保護者との対話を通じて、100%になるよう頑張っていきたいと思います。
議長(町長)	朝寝坊と親が作らない、どちらが割合が多いと思いますか。どうとらえてますでしょうか。
山本教育委員	それはちょっと私にはわからないんですけれども、すみません。単純に欲しくないっていう子も、女子なんかだと、一定割合いるのかなっていうのはひとつの理由として考えられることなのかなと思いますけれども、食べないと回答している子に関しては、やはり先生が、個別にちょっとチェックをして、記名されているアンケートだと思いますので、やはり少し声かけと確認と。やはり、食育の中で伝えてると思うんですけれども、朝食を食べることの大切さを繰り返し伝えていくことを、よろしくお願いいたします。
事務局(教育) 井出指導主事	ありがとうございます。様々な理由があるとは思いますが、十分な個別の聞き取りができていないので、まずはそこから、理由を押さえていきたいと思います。
議長(町長)	余分なことではございますが、親の理由で食べさせていない家庭があるのだとしたら、しっかりと、把握をしてください。 他に何かございませんですか。はい、どうぞ。
寺下教育委員	私の方からは、全体的なところで教えていただきたいのですが、上島町全体で集計されておるかと思いますが、各学校でも個別にデータが出ていると思いますが、特色というか、ばらつきがあったりしますか。だいたい同じような結果になったとか、全く違う結果になったのか、各学校で違いがあるか教えていただきたいです。
事務局(教育) 井出指導主事	人数も非常に少なくなっておりますので、個人の結果がすごく大きな割合で反映されていて、多少の差はあると思うんですけれども、どの学校も概ね、教科によってちょっと国語が得意な学校、算数が得意な学校、という差が若干出てくる場合もありますが、びっくりするほどの違いはありません。概ねこのようになっています。

寺下教育委員	ありがとうございます。
山本教育委員	各学校、島によって地理的に離れていますので、例えば学習塾の問題なんかは、ちょっと想像すると、かなり、弓削島の子供たちは恵まれてるかなと思います。岩城島にも昔は、少し前まではあったんですけども、もうどんどん家庭のご事情で辞められて、ほとんど個人塾ゼロのような状況に近づいておりまして、危機感を感じています。と言いますのも、今回実際のデータを見まして、全国平均は、去年に比べて、もしかしたら落ちてるのかなと。その辺もわかれば嬉しいんですけども、昨年と平均比較してのね、全国の日本人の子供たちのレベルがどのぐらいの状況を維持できているのかっていうことがすごく大事だと思うんです。 上島の、特に、私の伝え聞くとところでは岩城島の方に関しましても、中学校あたりでかなり学習の力がちょっと顕著に落ちているんじゃないかっていうのを周りの方から漏れ聞きます。前向きな姿勢はあるんですよ。先日も、今治市と上島町の教育研究大会に出席させていただいて、その資料で、岩城島の中学校のページを見ましたら、やはりかなり苦労されていると。意欲もあるし、真面目にもしているんだけど、理解がどんどんとちょっと落ちている顕著なところを、すごく研究されていて、すごくタイムリーな研究していただいているなと思ったので。実際にデータも、それぞれ、算数・数学がマイナス2.5ポイント、全国平均から、落ちてるっていうのは、もう本当に、由々しいかなという気はします。 英語に関してはこれに出ていないんですけども、調べたら、大変な結果が出てないかなという心配もあります。ALTさんの活用も、うまくいっているようで、やっぱりちょっといろいろと資質の問題なんかも少し心配です。というのも、ここのところ毎年入れ替わっています。うまく続いていませんし、馴染めていないのかな、日本語ができないのに日本に来て、子供に教えることが果たしてできるのかというね、その辺もすごく心配なので、中学生になると、英語の存在感は非常に増すので、ここで理解力を落として欲しくないというのをすごく思いますから、先生方に努力していただいて、フォローアップを。また、弓削島の塾に来られるような体制があったらそれもすてきだなと思いますし、いい先生がいっぱいいるので。みんなで支えていけたらと思います。
議長(町長)	はい。事務局から何かありますか。
事務局(教育) 井出指導主事	はい。あくまでも、お示ししている数字はある1学年の学力なので、これがすべてというわけではないんですけども、こういう結果が出ているということは、まだまだ授業に改善の余地はあるということです。先生方に教材研究してもらえばっかりではなく、効果的に、全国で効果も出ているような授業の進め方であるとか、そのようなものも、我々の方で取り入れて、紹介していきたいと思います。
議長(町長)	他に何かございませんか。どうぞ。

古江教育委員	この説明を受けて、思うところはいろいろあるんですが、去年できていたことが、今年ちょっと下がっているのが気になりますが、学年が違う、子供たちも違うという調査なのでそれはもう致し方ないと思います。また、先生たちもすごく努力して、今までできてなかったところが少し改善されて、できていることが増えているのはものすごくいいなと思いました。 子供たちの教育の中に、キャリア教育の推進で、体験活動をすごく積極的にして、上島町の企業見学とかですね、いろんなことをやっていただいて。5年後10年後には大学等で外へ出て行く子供たちはたくさんいると思うんですけど、それがまた上島町に戻ってくるような教育っていうのも、ものすごく大事にしていけないといけないなと思います。もっと、社会見学ができるところがあるんじゃないかな。弓削で言えば、弓削海苔を見学に毎年来ていただいて、すごく嬉しいんですけど、ほかにも、上島町にはもっと、帰ってきて働くところがあるよ、こんな魅力があるよ、っていうのを子供たちに伝えていけるようにできないかなと思いました。以上です。
議長(町長)	事務局からお答えありますか。
事務局(教育) 井出指導主事	はい。ありがとうございます。まさに、その他の分野での計画とか、体験に関しましても、それぞれの学校の学校運営協議会の方でも議題に上がっております。地域の方の協力も受けながら、そういった取り組みを広げていきたいと思っております。ありがとうございました。
議長(町長)	他に何かございませんですか。 ちょっと私の方から、今更の話ですが、せっかくですから、理事者側は何を考えているのか、ということも含めてですね、ご質問をいただけたらと思います。教育の専門分野のお話は定例教育委員会の会議でも、いろいろできるのではないかと思いますので、ぜひ町側への質問等もお願いします。理事者側から質問する人はいないので、つい、議長が聞いてしまうんですけど、このデータとしては、本当にありがたいと思っています。データは学力の分析、その報告はわかりました。それで、そこにおける問題点というか、対策をどうするかというのは、資料の12ページから、13ページに書かれているのが、データを分析した結果の対応策と読めばいいんでしょうか。せっかくそれぞれにデータが分かれていますので、データの後ろに対応策、という方法もあろうかと思っていますので、そういう書き方も考えていただけたらと思いました。傾向と対策じゃないですけど、ありがたいと思います。 また、3ページ、5ページのデータの活用について、他の平均より上島が高いという数字になっていますが、これはどう分析されていますでしょうか。
事務局(教育) 井出指導主事	はい。それぞれの学校で、実態に応じた取り組みをしているんですけども、資料、データを読み込むということを授業中に非常に多く取り入れている結果があらわれているのではないかと

	と思います。データといってもコンピューター上の数字ではなく、いわゆる資料を読み取って、それをいかして回答するということですので、そういったところが、日頃の積み重ね、結果が出ているのかなと思っております。
議長(町長)	はい。他になにか、体力学力のところで、何かご質問ございませんでしょうか。
大船教育委員	資料のことが出たので、お願いなのですが、今年の資料は字が少し小さいかと思います。データの数字が読みづらいので、可能でしたら次回対応をお願いします。
事務局(教育) 井出指導主事	失礼いたしました。 対応させていただきます。
議長(町長)	他に何かございませんか。ないようですので、次に進めさせていただきます。 日程第3、小中学校のICT活用状況について、事務局から説明をお願いします。
事務局(教育) 井出指導主事	はい。では続きまして、小中学校のICT活用状況についてご説明いたします。児童生徒の利便性を考えて、このICTに関しましても、上島町に予算をたくさんいただいておりますこと、本当にありがたいと思っております。 それでは、活用状況です。まずは、デジタル学習ドリル「e ライブラリ」の使用状況です。今年度2月5日現在、小中合わせて 13,044 回のログインが確認できます。一人当たりの平均では、30.1 回のログインとなります。学習ドリルは 32,000 回以上の使用となっております。 次に、新聞閲覧・作成アプリ「e スタ」の利用状況です。各月の利用率はこうになっております。ジュニア新聞を含む新聞を読むだけでなく、壁新聞の作成や新聞記事から考えたことを記入できるワークシート等があり、授業でもよく使っています。また、電子図書館の活用状況です。平均貸出冊数は小学生 85.4 冊、中学生 57.5 冊となっており、不読率の解消に貢献しています。魚島中と弓削中間で年間を通して行っている遠隔合同授業でも、ICT を利用しています。今年度は中学 2 年理科で実施しています。免許外教科の解消になっており、魚島中生にとっては貴重な協働的な学習の機会となっております。デジタルサポートルームでは、それぞれが所属している学級の授業を配信しています。ICT の活用位により同じ時間帯で授業を受けることによる学級への所属感の醸成と学習保証の両面を担保しております。 以上で説明を終わります。ありがとうございました。
議長(町長)	ただいまの説明につきまして、何かご質問ご意見等ございませんでしょうか。

古江教育委員	ICTは自分たちの時代にはなかったんで、とても抵抗感があったんですが、去年からデジタルサポートルームを設立して、学校訪問で子供たちが使用してるのを見て、すごく、学校という組織になじんでいて、一つの段階として不登校の子が頑張ってるんだなっていうのはすごく感じました。去年もこの会議のときに、ちょっと言ったのが、不登校の抑制に使うのであって、そこへ行けば、学校に来たことになるっていうようなことに気をつけて欲しいと意見させてもらっていたんですが、それも上手く先生方、サポートのみなさん等で、やっていけるんじゃないかなと思いました。 今年からはじまった e ライブラリーの中の電子図書館ですね。これ、本当にすごく、いいんじゃないかなと思うんです。結構な費用がかかるんですが、これを町民が使えるようには、ならないかなと、理事者側に質問してもよろしいでしょうか。
議長(町長)	理事者側がお答えください。
事務局(総務) 総務部長	電子図書館が年間どれぐらいかかるかわかりませんので、すぐには回答できませんが、例えばここで、交流館でアプリを設置するとか、そういうこともできるのかなと思いますが、金額面がわからないのですぐにはお答えできません。
古江教育委員	はい。ありがとうございます。
議長(町長)	ちょっと担当が来てないんで、連絡してすぐ調べてください。 ここの図書が電子化されてるのか。 他に何かございませんですか。
寺下教育委員	さっきの電子図書館の内容でもう少し教えていただきたいのは、普通の図書室よりもデジタルの方が、子供たちが本を読む回数が増えたっていうような認識で構わないんでしょうか。
事務局(教育) 井出指導主事	ありがとうございます。一概にそうとは言えないんですけども、図書室の方も、学校司書の先生がそれぞれ定期的に回っていただいて、非常に環境を整えていただいたおかげで、子供たちは紙の本ももちろん読みます。ただ残念ながら、紙の本は数が限られているので、読みたいときに貸出中のことがあります。それで、ある程度まとまった休み時間じゃないといけないんですけども、こちらのアプリの方は好きな時間に開きさえすればすぐ読めます。読みたい本は、人気の本が多いんですけども、それが、何人も一度に借りられるので、そういう面でもこちらを使いながら、両方使わせてもらっているんで、一概にこれで図書室の利用が減ったとか、そういうことではございません。
寺下教育委員	ありがとうございます。

清水教育長	先ほどの寺下委員さんのご質問、電子図書館と紙の本、どちらがいいかというアンケート、先生方から聞いているんですが、結果は半々だそうです。やはり紙で 1 枚ずつめくる、紙の手触りですね、それも大変よくて、やはり半々で子供たちはやる。この電子図書館のいいところは、パソコンで開くとですね、以前、読んでたところから開くんです。そして、今まで自分がこの1ヶ月、1年間で何を読んだかという記録も残っている。そういう良さもあるし、かといって実際の図書館では今、学校図書館司書が入ってですね、本当にものすごく環境が良くなって、そういう中で自分から本を探してみるというのも良さの1つです。今のところ半々、ということ、先生から聞いています。
議長(町長)	ありがとうございます。他に何かございませんですか。
山本教育委員	ICTは上島町は県内でも、先進的な取り組みでリードして、模範になっていて、皆さんの努力の結果の積み重ねで2年目が終わりますけれども、最近のニュースとしましては、世界の技術として、最初にヨーロッパの方で始まったITを軸にした教育っていうのが、またちょっと見直されてるところです。その反省点っていうのは多分皆さん、ニュースでお聞きなっている方々ばかりだと思うので、内容は説明しませんが、また原点に返っていくっていう動きも一方で必要に、なってくるのかなっていうところもございます。本当にベストミックスって難しいんですけども、上島町規模の顔の見える教育でしたら、そちらの方はね、心配ないぐらい、がっちり先生と生徒は、本当に強い結びつきでやってるのは、肌で感じますので、今後ともどうぞよろしくお願いします。
議長(町長)	ご案内のように、ICT、デジタル活用が国の制度としてできたときに、私どもも、全課に投げかけまして、何か施策はないかといった中で、教育委員会がこのデジタルサポートルーム等が該当するんじゃないかということでスタートしたというのもございます。またデジタルに対応、頼ると良いところ、また、デメリットもありますが、いいところもありますので、もっと積極的に活用して行きたい。そのように思っております。他に何かありませんか。
大船教育委員	1点いいですか。実は魚島地区としては令和6年度に、愛媛県の教育委員会から、学校防災教育実践モデル地域研究事業ということで、魚島地区が指定されました。それによって魚島地区防災教育実践委員会を設置しました。魚島地区の防災についていろいろと、ここにもおられます指導主事の先生とも協議して、それで私も消防関係者ということで、委員として子供たちと一緒に、防災マップづくりや避難所の設置方法等について、勉強してきました。その中で、愛媛大学の先生を講師として魚島にお招きして、講義をしていただく機会がありました。残念ながら、当日は海が荒れておりまして、船が欠航したため、急遽、オンラインを利用した遠隔での講義をしていただきました。魚島のような離島ではそういうふう、海が荒れることも多いので、ICTを整備することによって、大変便利になったなというふう実感いたしました。

	た。今後につきましても、ICTの整備を積極的に推進していただき、ICT教育に力を入れていただきたいと思います。
議長(町長)	ありがとうございます。他に何かございませんでしょうか。 電子図書館の件についてはどうですか。
事務局(総務) 総務課補佐	はい。今、交流館に確認した内容としましては、上島町独自の電子書籍の貸し出し、図書のデジタル化というのは、まだ、取り組みはない状況ですが、愛媛県の県立図書館が、電子書籍の貸し出しをスタートしたということで、県の方では取り組みが始まっていますので、町民の方は県立図書館のホームページから、電子書籍を閲覧することが可能だそうです。ただ、一般に流通している文学といった書籍は、無料で貸し出すには至っていません。愛媛県の資料、図鑑すとか、学術書などが中心になっています。
議長(町長)	わかりました。もちろん有料で全然構わないんですけど、子供たちは無料かな？で、電子図書を活用できるようにしてる。なぜ一般町民は使えない、そういう取り組みはないんですかね。帰って、担当課と協議してください。
古江教育委員	ありがとうございます。
議長(町長)	このICTに関して他に何かありませんか。
山本教育委員	本当にICTの取り組みがですね、目的を持ったものであるっていうことを、本当に常に、意識することがきっと大事なのかなと思います。と言いますのも、やって満足、という形になると、本当にお金の価値がぐっと変わってくると思うんですね。かなりのお金がかかっていることなんでしょうし、継続していくためには、定期的に消えていくものがあると思いますので、それがさらに発展的なものになるように、常に意識していけば、きっとすばらしい価値を将来的に発揮してくれるかなと思います。大変だと思いますけれども、よろしくお願いいたします。
議長(町長)	ありがとうございます。他にICTで何かございませんですか。 はい。続いて日程第4、その他でございます。今まで協議した内容以外でも結構ですし、元に戻っていただいても結構です。何か、ご意見ご質問等があったら、お願いいたします。
山本教育委員	先ほどのデータの内容について、一番気になる点としては、ゲームをする時間が全国平均よりもぐっと上島町が高かったというね。中学生と小学生、2学年ですけれども、明らかに出てい

	ましたよね。小学校が全国よりも 7.2%、3時間以上ゲームする人が多いですね。それと同時に自分には良いところがあると感じる小学生の5年生、6年生がマイナス 1.6%、全国よりも低かったというので、この辺は運動してるのかなと思いますし、中学生に至りましても、休日に2時間以上勉強する子が、10%以上低かったという結果と、平日に2時間以上ゲームをする率は 6.6%も全国よりも多かったと。これが結果的に、学力の方にも反映していくことなので、家庭の意識、また先生・学校から子供たちへ向ける意識づけ、両輪でやっていくしかないと思います。やはり1度スマートフォンやデジタルを手にしてしまうと、夢中になるように設計されていますから、子供たちのせいではないので、それは本当に親・大人の持っていく方次第だと心得て、取り組んでいきたいものだと思います。よろしくお願いいたします。町職員さんのご家庭でも、将来を担う子供たちを育てられていますので、その辺の意識を、町の方でもよろしくお願いいたします。その子たちの家庭が主軸となって、上島町の子供たち全体を引っ張ってってもらえるんじゃないかな、というふうに期待しております。 その他としましては、子供たちの通学路の安全性を、また引き続きよろしくお願いいたします。子供たちも自転車でシャーツと通ってもありますが、見通しがいいということがすごく大事だと思いますので、定期的な草刈、安全の確認っていうのは、申し訳ないんですが、気をつけて優先していただけるとありがたいです。
議長(町長)	ご意見をいただきましたので、通学路に関しましてしっかりと、担当課と協議したいと思います。他に何かございませんか。
寺下教育委員	最後にその他で申し訳ございません。昨今話題になっております、小中学校の統廃合につきまして、来月から教育委員会の方で、学校の在り方検討委員会が始まります。子供たちがよりよい環境で楽しく学ぶことができる環境というのは切に願うところでありますので、上島町におかれましても多大なるご支援の方、どういう方法になるかはこれからなろうかと思いたのですが、ぜひ、決まったことがございましたら、ご支援の方よろしくお願いいたします、要望とさせていただきます。
議長(町長)	この小中学校の統合については、本当に上島町にとって重要な案件でございますし、地域の熱量が様々なので、最も難しい案件だと思います。ただ、1年ぐらい前ですかね、議会でも、保育園をどうするのかという話が出たときに、教育委員会と住民課、しっかりと協議をして手順を踏んで、町民の理解を得ながら進めていくという話になっていることはご案内の通りでございます。先日保育園の協議の報告があったときに、保護者の方々は、小学校がどうなっているのか、小学校に合わせるべきだろうというようなご意見になっております。もちろんそうなんです、義務教育は教育委員会、保育は住民課ということで、管轄が異なります。一緒に考える必要性はありますが、だからといって同時にやらなければならないという義務もないことで、私が昨年、担当課に指示しているのは、義務教育は教育長以下、教育委員会が決定することと理解しておりますので、あれこれ言うつもりはありません。ただし保育園に関しては、学校のことは別として、行政が保育・子育てをどうするのか。住民課として方向性出すべきじゃな

	いかということで、2園にしたらどうかという提案を、今させていただいているところです。これは何かというと、保護者のみなさんから、行政側から1度方向性を示してほしいと。意見ばかり言っても前に向いて行かないんじゃないか、というようなことがございましたので、それも含めて、2園が適切ではないかという、方向性を先日提案させていただいたところです。ご案内のように、でもやっぱり小学校の統合に合わせるべきじゃないか、というようなお話もありましたので、保育行政と、義務教育は異なるものという判断で、今、理事者側は動いております。ただ、大事なところでありますので、今、ここで、こうするという答えは出ませんが、教育委員会として、今後どういう過程で進めようとしているのか、教育委員さんもいらっしゃるし、私も聞きたいです。
事務局(教育) 学校教育課長	よろしいでしょうか。来月16日に第1回の検討委員会を開催する予定にしております。まず1回目集まっていただいて、各地区の区長さん、それからPTAの代表、保育所保護者会の代表、それぞれ、委員になっていただいておりますので、それぞれの団体の意見を確認していただくというふうに思っております。教育委員会としては、統合した場合のメリットデメリットなどをまとめて、それを提供をして、協議していってもらう。その中では生名保育所の統廃合についてもしっかり考慮して、委員さんに協議をしていただく。というような方向で考えています。
議長(町長)	生名保育所は関係ないんじゃないでしょうか
事務局(教育) 学校教育課長	そうですね。関係ないんですけど、前回の、委員会の答申、それから教育委員会の、基本計画の中に、生名保育所、生名小学校については、保育所の統廃合も、考慮する旨の、記載もありますので、その辺は委員さんにもお知らせをしながらやっていこうと思います。
議長(町長)	今の流れは小学校がどうなるかによって、生名保育所をどうする、という考え方の保護者がほとんどです。小学校の統廃合をどうするんですかという投げかけに対して、保育園がどうするのか、という投げかけをもう一度されると、あっち行ったりこっち行ったり、になるので、純粋に小学校をどうすべきかをシンプルに考えられたほうがいいんじゃないですかね。
事務局(教育) 学校教育課長	まず児童生徒の教育環境っていうのを大事に考えて、協議をしていこうと思っております
議長(町長)	それでもう1点は、議会あるいは別の協議会の中で、ご意見をいただいて、住民課と教育委員会がしっかり話をしてくださいと、保育園の方々から、小学校がどうなるかによっていろいろ変わるんだからというご意見をいただいているので、関連するから、教育委員会と住民課でしっかり話してくださいねというのはもう1年以上前に話はしてると思います。その第1回目がもうじきあるということで、この間、何してたのかなという、ちょっと私がいつもこう言うときつ

	いんですけれど、住民課と教育委員会でしっかり話してくださいねって伝えているはずです。公に委員さん、公の立場の方に集まってもらうのはこれからだろうけれど、内部ではしっかりと、検討を続けてきたということでもいいですかね。
事務局(教育) 学校教育課長	そうですね。確かに話はしてきてましたけども、協議する方向性として、当初はそれぞれ、教育委員会も検討委員会を立ち上げて、合同開催をするなり、同時進行で考えていくのも1つの手かなっていう、方向ではあったんですが。保育所、それから学校の協議する時期が、やはりちょっと違ってしまいましたので、そこがちょっとタイミング合わなかったっていうところです。
山本教育委員	実際、我々の1年間の定例会議の中で、具体的な話し合いの時間っていうのは、微量でした。というのもやはり、私たちメンバーも、もうそれぞれ各島のね、情報は入れたりしておりますけれども、やはりお仕事に忙殺されてた面がすごくあるのは感じました。やはり大きな問題なので、検討委員会が立ち上がったから、そしてそれと足並みをそろえながら教育委員会独自の考えも持っていく。というのはずっと言っていますけれども、かなり忙しい1年間だったので、留学生事業も、非常にこの教育委員会の方々がもうその都度動かれ、大きな責任を負ってますから、はい。一時ちょっと給食の方もね、あわや岩城小学校に給食がこないかも、みたいな状況になったりとか、いろいろと乗り越えてきたので、もうここまでいきましたら、かなり住民の方々、保護者の方々のフラストレーションも、溜まってきて、いい感じにたまってきていると思います。というのも今回その委員を任命し、受けてくださった方々も、聞きました話ではもう、誰1人断ることなく18人かな。委員さんが、はいやりますっていうぐらい、もう意思を持って、今回集ってくれるので、前回のような、本当にふわっとしたものではない。かなり皆さん、心に思いが、ものをはっきりと持って集まられてると私は期待しております。この現状が、教育課と教育委員会と、住民課は全然そのすり合わせの方はね、保護者の目から見たら、できていないっていう状況、ここからがスタートで、ぜひすり合わせは本当にやって欲しいっていう保護者の意見が高まっていますので、町の方のご協力、声がけも、後押しになると思いますので、ちょっと忙しい中ですがけれどもよろしくお願いしたいと思います。
議長(町長)	ありがとうございます。大変だと思います。地域性も出たり、感情論も出たりするので、これは本当に難しい。保育園の協議をしている中で報告を受けていると、小学校の統合はどうなってるんだという話が必ず出てきますので、それもあわせてお願いしたいと思います。ただ私は冒頭に申し上げましたように、保育と義務教育は別問題だと思っております。私は保育の管轄にはきちんと子供たちのために、早く方向性を出さないといけないよということで、伝えておりますが、どうしても小学校の話が出るので、その辺もご配慮いただきながら。私は小学校、保育園をイコールだと思っていませんが、そういうご意見もあるので、ご意見を大切にしながら、100%すべてを取り入れなければならないとなると多分前に向いていきませんから、それは取捨選択しないといけないんですけど、話の中で小学校の統合はどうなってるんですかというお話が出ておりますので、またご配慮いただけたらと思います。

山本教育委員	先ほどの話、実際会議がスタートいたしまして検討委員会のメンバーなんですけれども、構成が、やはり区長さんは人数がどうしても多いです、年齢もかなり上の方方で、当然、区長さん方は、地域愛に溢れていますし、愛校心、今まであった学校への思いで、それから仲間たちへの思いから、どうしても保護者の意見と乖離する可能性が大きいですから、保護者・学校PTAが小学校で、お1人とか、保護者代表、保育所代表がお1人とかとなると、非常に若いので声も出しにくい、年上の方に対して目上の方に対して、自分の意見がズバズバいえる空気かと言ったら、なかなかそうならないので、やはりその辺のこともちょっと底上げして、保護者、実際の当事者の気持ちっていうのを、もう少し声が大きく、できるような環境づくりをしないといけないかなと思います。
議長(町長)	今度の検討協議会委員さん、大変だと思いますけれど、本当に 100%正しい答えっていうのはなかなか難しいです。保護者の気持ちもよくわかりますが、客観的な、公平公正なまとめをしていく仕事を、第三者というか、委員がしていかないといけないんじゃないかなと思います。意見を尊重しながら、対応していただけたらと思っております。 その他、他にございませんか。
事務局(教育) 学校教育課長	先ほどのICTの活用状況の中の電子図書館のことで、一般の方にもっていうことではあったんですが、予算の状況っていうところなんですけども、デジタル田園都市国家構想推進交付金を活用しまして、令和6年3月1日から、令和8年3月31日まで 2 年と 1 ヶ月のパックとして整備しており、金額が 215 万 6000 円ということで、学校の児童生徒数をパックにしていますので、人数増えると、上がっていくんですけど、その単価は今わかりません。
議長(町長)	教育委員会の取り組みについてはわかりました。ご質問は町民が使えないのかというご質問。
事務局(教育) 学校教育課長	はい。そうですね使えないことはない。そういう契約にすれば。
議長(町長)	担当課は変わってくるかもしれませんが、子供たちが読んで、親も見て。だったら、町民も使えないかなっていうのは、出てくると思いますので、ぜひ担当課と、リンクできるなら、やっていただいて、一般の町民の方が自由に電子図書を借りられるようなシステムができるのかどうか。しっかりと担当課とお話をしてください。他に、その他でございませんか。
山本教育委員	話は大きく変わるんですけども、今、世界は大きな転換期を迎えていると思います。日本はすごく影響を受けていますので、昨年の4月にLGBT法案が、国会を通過して以来ですね、もう、すぐ、待っていましたかのように学校教育の中に、そちらが入ってきて、私も、それを眺めながら、何とも言えない気持ちが込み上げてきておりました。このたび、アメリカの政権が変わって、そのような考えはすべて白紙に戻すと。いう動きになりまして、それは本当に信念ある、勇

	気ある行動だと私は思っているんですけども。教育の現場でも、たくさんのいろいろな、取り組みも始まりましたし、保護者会においてもいろんなそういったレクチャーを受けたりします。そしてまた同時に、町の方でも、男女共同参画委員会っていうものがありましてですね、そちらの方でもやっぱり学校関係の方は招集されたりして、非常に何か当たり前のように、だんだんと盛り上がってきたような、でも普通感覚、常識から考えたら、おかしいなと首をかしげてる町民の方も多いと思うので、教育の現場は本当にシンプルになるように、町も協力していただきたいなと思います。 議長(町長) ありがとうございます。なかなか難しい問題ではございますが、教育分野は教育委員会・教育課の方でしっかりと検討していただき、行政分野においては理事者側がしっかり勉強させていただこうと思っております。なので行政側、専門的な言葉が出てきませんが、戸籍の関係とかいろんな部分で、まだ法では認められてないので、ルールで運用しようという自治体がございます。そういうところも勉強しながら、どんなメリットがあるか、どんなデメリットがあるのか、勉強していきたいと思っております。今までの法律も積み重ねて改善に改善を重ねて、今の法律があると思いますので、すべてが悪いわけではないと認識しています。ですから、単なる風の流れて、簡単に制度を変えていくっていうのもどうかと思っています。その辺は、大統領が変わると、急に世の中は、男と女しかいない、というようなそれが、本当に 180 度変わるような時代でございますので、どちらにしても、慎重に、どちらが正しいというのは、よく私はまだ勉強不足でわかりませんが、片方が正しい片方が間違っていると決め付けるのはまだ早いのかなと思っております。ただ、日本の、慣習、伝統、これは大事にしないと。世界で埋もれてしまう、そんな気がしています。他に何かございませんか。 はい。ではないようでございますので、私から1点、いろいろある中で、学習塾の話も出ました。これからの検討課題ではございますが、行政経営は、政治色がついたらいけない、なるべく手をつ突っ込まないというのが大原則ではございますが、たとえば言うと、上島町では2年に1回、音楽祭をやらせていただいております。これは本来行政がやることではないんです。民間業者が切符を販売して、お客さん呼んで、アーティストを呼ぶというものなんですけれど、なぜ行政がやるかというと、そういう民間事業者がいらないからということです。子供たちに絵本、生の本物の音楽を聞かせたいということで、本来であれば民間業者がやるところを、行政がお手伝いし、子供たちに経験してもらいたいということで、音楽祭がスタートしたという経緯があります。そういった意味で、学習塾とか、都会の便利のいい地域で子供たちが受けるサービスというか、便利のいいところ、上島町では受けられない部分に関しては、これは行き過ぎないようにやらないといけませんが、行政が取り組んでいくというふうに考えております。これは塾だけではなくて、都会の予算がある、人も多いところではできるけれど、島である上島町ではできないという、子供たちに対する提供があるとすれば、行政がしっかり取り組んで参りたいと思っています。 はい。それではごめんなさい、ちょっと時間が延びてしまいましたけれど、議事についてはこれで閉じさせていただきます。あとは事務局、よろしくお願いいたします。
--	---

事務局(総務) 総務課長	町長、議事進行ありがとうございました。 それでは以上をもちまして、令和6年度第1回上島町総合教育会議を終了とさせていただきます。皆さんありがとうございました。
全員	ありがとうございました。

署名 上島町長 上村 俊之

署名 上島町教育長 清水 伸